

社会とカシオ

カシオ独自のノウハウや経営資源などを活かし、良き企業市民として、広く社会に対する責任を果たしていきます。

社会貢献活動の考え方

カシオは、健全で心豊かな社会づくりを目指し、社会とのコミュニケーションを通じて、また、良き企業市民としてカシオに何ができるかを見極めながら、積極的に社会貢献活動を行っています。重点分野としては、以下の5分野を設定し、カシオ独自のノウハウや経営資源、並びに従業員個人が保有するさまざまな知識や経験を有効に活かして、カシオらしい活動を展開していきます。

■社会貢献活動重点5分野



次世代育成活動

カシオは次世代を担う子供たちにより良い未来を築いてもらうため、工場見学や社員の出前授業に取り組んでいます。国内拠点をはじめ、海外でも活動を推進しています。

「カシオ科学振興財団」への支援

カシオは「カシオ科学振興財団」への支援活動を通じて、科学技術の発展に貢献しています。

財団について

カシオ科学振興財団は1982年に、故・榎尾茂前会長と榎尾4兄弟によって設立されました。

わが国が技術先進国として世界に貢献するという使命を果たすには、高度な研究開発がさまざまな分野で進められるべきであるとの理念のもと、研究助成活動を展開しています。なかでも、限られた研究費で困難な研究を続けている若手研究者による萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究の助成を主眼としています。助成対象分野も電子工学・機械工学から健康関連・省エネ関連の自然科学、また人材育成・人間行動の人文科学まで幅広い分野に対応しています。

なお、27年間の研究助成の累計は12億8,100万円（1,014件）に達しています。



第27回（平成21年度）贈呈式

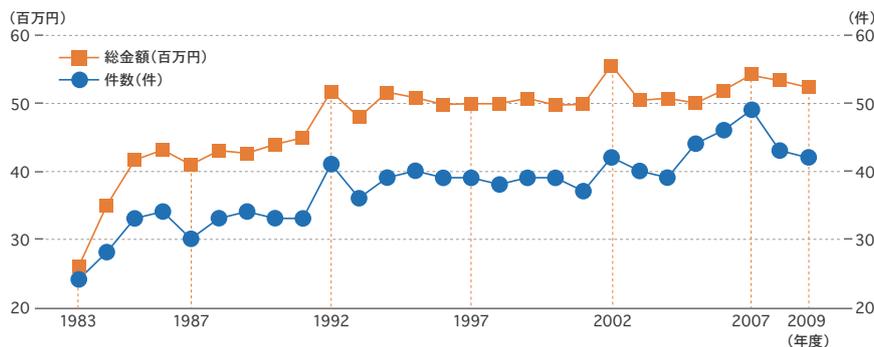
2009年度の助成内容

2009年度は、5分野21分類の基本テーマに加え、近年の社会情勢から見て重要と思われる3つの特別テーマ（「小型化・低消費電力化」、「健康維持・増進のための電子装置」、「IT社会における人間の知的進歩」）を設定しました。

135大学に研究テーマの推薦を依頼した結果、72大学から216件という過去最多の応募が寄せられました。特に健康および環境を目的とした研究テーマが多数を占め、現代の科学技術のニーズが明確に浮かび上がりました。

厳正な選考審査の結果、自然科学部門4,500万円（37件）・人文科学部門700万円（5件）の助成を実施しました。助成研究者は30～40代が大半であり、12月に行われた贈呈式には次世代を担う若き研究者が多数参加しました。

■カシオ科学振興財団 研究助成金の推移



事務局の声



カシオ科学振興財団
事務局長

清水 知洋

近年、研究助成に対するニーズは急速に拡大しており、2009年度は予定枠の5倍を越す多数の応募がありました。また、財団の公益性に対する基準も大幅に強化されたため、選考審査の公平性・公正性には万全の配慮が必要となります。こうした時代の要請に応え、科学技術の発展という社会的な使命の一翼を担うべく、さらなる努力を傾注してまいります。

助成研究者の声



東京農工大学 大学院
工学研究院 准教授

白樫 淳一様

原子や分子スケールの極微な世界で発現されるユニークな物理現象を工学的に応用する試みが始まっています。ナノエレクトロニクスやナノテクノロジーと呼ばれるこのような研究領域では、必然的に探索的・挑戦的な色彩の研究課題を取り扱う事になります。研究の先端性ゆえに自身の研究課題の意義、意図や全容を正しく理解してもらう事が難しい状況も多々ありますが、このような研究に対する評価・支援を厚く感謝し、さらなる拡充を期待いたします。

「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」支援

カシオは、1994年に日本で開催された「第4回国際イルカ・クジラ会議」より、“G-SHOCK”と“Baby-G”の協賛モデルを販売し、売上金の一部を「アイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）※1」に寄付する事で、世界各地のイルカ・クジラに関する教育・研究活動を支援してきました。

2009年度は、“Love the Sea And the Earth”というテーマのもと、「イルカ・クジラモデル」でサポートを続けてきた「アイサーチ・ジャパン」に加え、環境の保全・研究を支援している「アースウォッチ※2」の2つの団体支援をするため、海・生物・植物をイメージした“G-SHOCK”と“Baby-G”4モデルをラインアップし、その売り上げの一部を寄付する事で、当団体を支援しました。

※1：アイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）

1991年に設立され、イルカ・クジラと地域の自然を大切にするため、「知る」「会いに行く」「大切に作る」という3つのステップでイルカ・クジラと自然の素晴らしさを伝える活動に取り組んでいる非営利団体です。

※2：アースウォッチ（EARTHWATCH）

1971年にアメリカ・ボストンにて設立。世界各地で行われている時間・資金・人手を要する気候変動や野生生物・生態系など環境保全研究の地道な野外調査を「資金と人手」の両面で支援しており、野外調査へのボランティア派遣活動においては世界で最も古く、最も信頼されている国際NGOです。



「国際イルカ・クジラ・エコリサーチネットワーク」モデル

災害被災者への支援

カシオでは自然災害などにより甚大な被災が発生した場合、被災者の方々の救済と被災地の1日も早い復興に支援を行っています。

2009年度の取り組み

- ・台湾台風「モーラコット」被災に義援金15万円を寄付
- ・インドネシアスマトラ島西部パダン沖地震被災に義援金190万円を寄付
- ・フィリピン台風16号「ケツァーナ」被災に義援金100万円を寄付
- ・ハイチ大地震被災に義援金100万円を寄付
- ・チリ大地震被災に義援金100万円を寄付

中国で日本学研究修士論文コンテストに協賛

カシオ上海は、2008年度に引き続き、中国教育部大学外国語専門教学指導委員会日本語分会、中国日本語教学研究会、および北京外語大学日本学研究センターが共同主催する、中国で唯一の日本学研究修士論文コンテストに協賛しました。

同コンテストは、中国の各大学間の交流を促進し、中国における日本学研究を深め、さらなる優秀な日本学研究の人材を育成する事を目的としています。電子辞書メーカーであるカシオグループは、これを積極的に支援すべく、同コンテストの名称を「カシオ杯」として開催しています。

第2回となる2009年度は、2008年度よりも4大学院多い、33大学より推薦された41編の修士論文が日中の専門家により審査され、1等賞3人、2等賞6人、3等賞9人が選ばれました。

今後も中国の日本語教育・日本学研究の発展支援に努めていきます。



表彰式（北京外語大学 日本学研究センターにて）

シカゴパブリックスクールにグラフ関数電卓を寄贈

カシオアメリカはシカゴパブリックスクールの20校を対象にグラフ関数電卓を5,000台贈呈しました。

アメリカの高校数学教育ではグラフ関数電卓を授業で活用していますが、生徒の各世帯収入の差などにより、必ずしもすべての学生がグラフ関数電卓を購入できるわけではありません。

カシオは、多くの学生にグラフ関数電卓を使った学習機会を提供するために、シカゴパブリックスクールと協力して、製品を供給するだけでなく、対象高校の先生方へのトレーニングを実施して、より効果的な授業を行えるようにサポートしています。

先生方からは「カシオのグラフ関数電卓は使いやすく、生徒の理解を高めるのに役立つ」と高い評価をいただきました。

今後は希望する他の学校へもトレーニングを実施できるようサポートを継続していきます。



先生方へのトレーニング

果樹王国ひがしね さくらんぼマラソンに協賛

山形カシオは、「企業活動だけでなく、地元・東根市への地域貢献を通じて地域により愛される企業になろう!」と考え、「果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」に、2004年より協賛しています。

8回目となる2009年の大会では、協賛企業として賞品提供、販売ブースの出店を行い、また、従業員約40名が、ランナー、応援団、沿道整理ボランティアとして参加しました。

地域の方々との協力関係や信頼関係をより深く形成していくため、今後もこうした地域貢献活動を積極的に行っていきます。



山形カシオ応援団

その他の主な社会貢献活動一覧

■ 2009年度 社会貢献活動一覧

分類	件名	内容実績	実施主体
教育	企業訪問の受け入れ	総合的な学習の一環として、中高生を中心として、400名の訪問を受け入れ。	カシオ計算機
	教員の民間企業派遣研修への協力	財) 経済広報センター主催の「教員民間企業派遣研修」の受け入れ企業として協力。教員5名を迎え3日間のプログラムを実施。	カシオ計算機
	カシオワールドオープンでの教育活動	1) 地元小学生を大会に招待し、学校の校外学習プログラムとして試合見学、スナッグゴルフ体験・放送センター見学などを実施。 2) ツアープレイヤーが小学生22名に対し、ゴルフレッスンを実施。	カシオ計算機
	専門学校から研修生受け入れ	2009年11月～2010年2月、湖南省懷化市 鉄道職業専門学校の学生280人が電子辞書の製造ラインで現場を体験。	カシオ電子科技中山
	大学授業の一部としての学生向けトレーニング	大学授業の一環として、学生19名に対し専攻に関連する業務を職場で3～4カ月程度実施。	カシオタイ
	インターンシップ提携	学生を2名受け入れ、2週間程度、OJTを実施。 学生を9名受け入れ、OJTを実施。	カシオ情報機器 高知カシオ
環境	ライトダウンキャンペーンに参加	環境省の「CO ₂ 削減/ライトダウンキャンペーン」(6月21日、7月7日)に、カシオ国内グループ会社が参加(4社6拠点)。2日間で得られた削減効果はトータルで約2,415kwh (CO ₂ 換算 約913kg)。	カシオグループ
	エコキャップ運動の推進	カシオテクノ、カシオ情報機器、カシオビジネスサービス、カシオ計算機(国内営業拠点)が、エコキャップ推進協会(NPO)実施の「エコキャップ」運動に参加し、同協会にキャップを提供。	カシオグループ
	植樹活動に参加	中国シンセン市の環境を美化するため、シンセン市緑色基金による植樹活動に従業員29人が参加し、35本を植樹。	カシオ電子シンセン
	エコバックの製作・配布	エコバックを自社製作し、従業員、お取引先に配布。	カシオ電子シンセン
	国分川芝焼きへの参加	害虫駆除や、地元の川を見直し環境美化意識を高める事を目的とした国分川の芝焼きに従業員27名が参加し、地域活動に協力。	高知カシオ
	埼玉県 温暖化対策キャンペーン(夏・冬)への参加	従業員およびその家族約130名が参加し、家庭での室温設定、電灯や電気製品の省エネに取り組む。	カシオ電子工業
	清掃ボランティア活動の実施	各会社にて社員ボランティアにより会社周辺の清掃活動を定期的に行う。	カシオグループ
	献血/骨髄ドナー登録への協力	カシオ計算機、山形カシオ、甲府カシオ、高知カシオ、カシオマイクロニクス、カシオ日立モバイル、カシオタイにて実施し、社員が協力。	カシオグループ
福祉作業所への商品解体・開梱作業の業務委託	廃棄となる商品、オプション、販促物などの解体・開梱・分別作業を業務委託し、作業者の自立支援および地域貢献を図っている。	カシオビジネスサービス	

■ 2009 年度 寄付活動一覧

分類	件名	寄付先	実施主体
教育	国際大学への協賛	国際大学	カシオ計算機
	SIFE JAPAN への寄付	SIFE JAPAN	カシオ計算機
	カシオ教育奨励基金の設置	北京大学、北京外国語大学、天津外国語学院、上海外国語大学、華東政法大學、同済大学など	カシオ上海
	カシオ学生奨学金の設置	Pinellas City Schools, Florida, Denver Public Schools, Colorado, Omaha Public Schools, Nebraska	カシオアメリカ
	Costco 奨学金への寄付	Costco Scholarship Fund	
	The Toys "R" Us Children's Fund への寄付	The Toys "R" Us Children's Fund	カシオアメリカ
	外教社カシオ CUP 全国中学生英語読解試験	上海外国語教育出版社	カシオ上海
	第 8 回 21 世紀カシオ CUP 全国中小學生英語スピーチ大会	中国日報社	カシオ上海
	中国教師の 2009ATCM (アジア数学科学大会) への参加援助	ATCM 事務局	カシオ上海
環境	国際芸術協力機構への支援	国際芸術協力機構 (ArTec) (NGO)	カシオ計算機
	日本経団連自然保護基金への寄付	日本経団連自然保護基金	カシオ計算機
	Think the Earth プロジェクトへの協賛	Think the Earth プロジェクト (NPO)	カシオ計算機
	WWF ジャパンへの支援	世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン) (NGO)	カシオ計算機
	産業廃棄物処理事業振興財団への寄付	産業廃棄物処理事業振興財団	カシオ計算機
	根がらみ前水田保全のためのチューリップ球根・大賀ハス里親協賛	東京都羽村市	カシオ計算機
文化・芸術	NHK 交響楽団への協賛	NHK 交響楽団	カシオ計算機
	東京フィルハーモニー交響楽団への協賛	東京フィルハーモニー交響楽団	カシオ計算機
	パリ日本文化会館への協賛	パリ日本文化会館	カシオ計算機
	全国少年子供電子キーボードコンテストへの協賛	中国宋慶齡基金会	カシオ上海
地域社会	近隣の寺院、ならびに幼稚園および小学校への寄付	近隣の寺院、ならびに幼稚園および小学校	カシオタイ
	世界少年野球大会への協賛	世界少年野球推進財団	カシオ計算機
その他	カシオ労働組合主催「社会福祉貢献カンパ」への従業員ボランティアによる協力	日本ユニセフ協会、日本ユネスコ協会連盟、あしなが育英会など	カシオ労働組合組合員有志